

令和4年度 授業評価アンケートに関する  
自己評価報告書

令和4(2022)年9月

別府大学

## ◆授業評価アンケートの活用

視点① 学生による授業評価アンケートの実施

視点② IR 業務を担当する者による分析

視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

### I. 事実の説明及び自己評価

視点① 学生による授業評価アンケートの実施

#### 1 実施期間等（令和2年度分）

前期：令和2年7月27日（月）～令和2年8月31日（月）

後期：令和3年1月12日（火）～令和3年1月31日（日）

（参照：報告書 P79 実施要領の入力期間に掲載）

#### 2 対象者

全学生（国際言語・文化学科 349名、史学・文化財学科 475名、  
人間関係学科 325名 食物栄養学科 277名、  
発酵食品学科 121名、国際経営学科 492名） 計 2,039名

授業科目数 1,695科目（前期828科目、後期867科目）

履修者数 45,362名（前期22,153名、後期23,209名）

（参照：授業科目数は、報告書 P9・10、学生数は別紙資料1、履修者数は、資料省略）

#### 3 回収状況

回収数 17,462名（前期7,998名、後期9,464名）

回収率 38.4%（前期36.1%、後期40.8%）

（参照：報告書 P9・10）

視点② IR 業務を担当する者による分析

分析については、まず、各教員が行い、改善プランをFD委員長に提出し、FD委員長による見解（報告書P1～P8）を取りまとめ、統括するFD委員会で最終の取りまとめを行っている。また、授業改善に関するFD活動も実施している。IRerは、独自にデータ分析を主に行い、企画運営会議等で気づいた点や改善案を提案している。今回は、主に次のような気づきを報告した。改善等は今後提案を行う予定である。

#### 1 分析結果

- ・回収率が38.4%と低下減少が見受けられる。
- ・授業外学習時間が、コロナ禍のためと思われるが、1科目あたりの平均学習時間2019後期51分、2020前期61.7分、後期55.1分、2021前期50.2分、後期49.9分（※2020年度報告なので2019年度の後期分のみ比較すると増加しているが、2020年度と2021年度を比較すると減少している）ことが見受けられる。

（参照：報告書 P11・12、P24・25、P35・36、P44・45、P54・55、P61・62）

### 視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

#### 1 教員への分析結果のフィードバック状況

教員への分析結果のフィードバックについては、回答期間終了から1カ月後、教員別に（科目別の集計・自由記述）結果を封筒に入れて返却している。

（参照：報告書に掲載なし）

#### 2 教員からの改善状況報告

- ・改善点、評価結果の受け止め、授業改善プランをFD委員長に提出され、FD委員会で「学生による授業評価アンケート報告書」に取りまとめられ、企画運営会議、教授会で報告される。（参照：報告書に掲載なし）
- ・授業改善に関する評価の高かった教員によるFD研修会を実施している。

#### 3 学生へのフィードバック状況

- ・「授業評価報告書」をホームページに掲載し、公表している。
- ・「授業評価報告書」を学生とのFD研修会に提出し、意見を求める等している。また、その意見や対応についても、後日取りまとめて、学生へ周知し、教授会等へも報告している。

### II. 改善・向上方策（将来計画）

- ・回答率が、現在38.4%のため、90%以上の回収を目標に具体的な改善策を検討する必要がある。
- ・最近では、コロナ感染に関する質問も取り入れているが、質問内容のマンネリ化も見受けられるため、設問の見直しも必要と考えている。ただし、質問数を増やすことは好ましくないと考えており、また、変えてはいけない項目もあるなど、苦慮しているところである。

### III. 関連資料

- (1) 授業評価アンケート実施要領（参照：報告書 P79）
- (2) 授業評価アンケートを実施する機関の規則等  
FD委員会規則 別紙資料2

（文責 別府大学・短期大学部 IRセンター 主任 IRer 山田竜大）

令和4年度 授業評価アンケートに関する  
相互評価による指導・助言の為の  
相互評価報告書

令和4(2022)年9月

自己評価大学：別府大学  
相互評価大学：西九州大学

## 【相互評価報告】

### 1. 総評

授業改善に向けた取組みとして、授業評価アンケートが効果的に活用されている。全学生・全科目を対象にアンケートが実施されており、アンケート結果は、FD 委員会による見解が述べられると同時に、IR 部門による分析が行われ、主要会議の場において気づきや改善点が共有、提案されている。

また、授業評価アンケートの結果は、教員及び学生へフィードバックされる仕組みが構築されており、より確実に授業改善が行える体制となっている。

このことから、授業改善に向けた取組みとして、授業評価アンケートが効果的に活用されていると言える。

### 2. 視点ごとの評価

#### 視点① 学生による授業評価アンケートの実施

前期・後期とも全学生・全科目を対象に授業評価アンケートを実施しており、アンケート回答期間は 3 週間以上確保されている。各教員に対しては、「学生による授業評価アンケート実施要領」により FD・SD 委員長より依頼がなされている。また、教員所属学科ごとにアンケート結果の項目別平均点が公表されており、学科・課程間の比較が一目で確認出来る。

以上のことから、学生による授業評価アンケートは適切に実施されていると考えられる。アンケート回収状況については、改善・向上方策に記載があるとおり、今後の回収率向上に期待したい。

#### 視点② IR 業務を担当する者による分析

授業評価アンケートの分析プロセスが明確化されている。また、各教員による改善プランに対し、FD 委員長による見解が章ごとに分かりやすく的確に記されており、最終的には統括する FD 委員会で取りまとめが行われ、報告書という形でホームページ上に公表がなされている。アンケート結果は、授業改善に関する FD 活動にて活用されており、PDCA サイクルが機能していると言える。

IR 部門による分析について、FD 委員会とは別に IRer による独自のデータ分析が行われ、IRer 視点での気づきや改善案を企画運営会議等の主要会議で共有及び提案がなされている。分析結果は、表とグラフにより分かりやすく可視化されている。

FD 委員会ならびに IRer による独自分析によりあらゆる視点からの気づきや分析が可能であるため、より確実に授業改善に向けた働きかけが可能となっている。

以上のことから、IR 業務を担当する者による分析は適切に実施されていると考える。

#### 視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

教員及び学生へのフィードバックが徹底されている。教員に対しては評価結果を個別に配付し、教員は、改善点、評価結果の受け止め及び授業改善プランを FD 委員長へ提

出するようになっている。教員からの授業改善プラン等は FD 委員長を經由し FD 委員会にて「学生による授業評価アンケート報告書」として取りまとめられ、主要会議にて報告される仕組みが構築されている。また、授業改善に関する評価が高い教員による FD 研修会が実施され、全学的な授業改善に向けた取組みが行われており、教員間のフィードバックという点では適切だと考える。

学生に対しては、授業評価報告書をホームページ上に公表し、常に確認できる状態にされている。また、学生との FD 研修会を実施し、授業評価報告書に対する意見を求める取組みが行われている。学生からの意見や意見に対する大学の対応については、教授会等で報告され、学生に対しても周知がなされている。

以上のことから、授業評価アンケート分析結果のフィードバックは適切に行われていると考えられる。

上記のとおり、評価しましたので、報告します。

令和4年9月20日

評価者：学校法人永原学園 IR 室長 福元 健志